

2月定例記者会見会議録

平成30年2月5日（月）午前11時～
市役所2階 市議会第1委員会室

1. 市長からの発表

まず、資料No.1の「伊賀上野城下町の文化的景観」が日本の20世紀遺産20選に選ばれたことについて記念シンポジウムが開催される件です。

昨年末の12月8日に日本イコモス国内委員会が「日本の20世紀遺産20選」を発表し、「伊賀上野城下町の文化的景観が選ばれました。

その背景としてこれまで世界文化遺産に20世紀遺産が登録されてきましたが、著名な建築家による建築作品に偏っている状況を受けて、2010年頃から20世紀遺産の多様性についての議論の必要性が指摘されはじめました。それを受け日本イコモス国内委員会の20世紀国内学術委員会において、この課題に取り組むことを開始し「日本の20世紀遺産20選ワーキンググループ」を設置し議論を重ね、このたび議論の結果がまとめられ発表となったとのことでした。

私どもの「伊賀上野城下町の文化的景観」が選出されたポイント・視点としまして、「伝統と20世紀遺産の対比・融合」があります。同じ視点での今回選出の日本の20世紀遺産に選定されたのは、他に「上野恩賜公園と文化施設群」や「南禅寺界隈の近代庭園群」などがあります。

「伊賀上野城下町の文化的景観」は、城下町の他に、俳聖殿、伊賀文化産業城、旧上野市庁舎、白鳳公園レストハウス、上野西小学校体育館の5つの建築物が構成資産になっています。俳聖殿は国指定重要文化財、伊賀文化産業城は市指定文化財であり、また、近現代建築群の旧上野市庁舎、白鳳公園レストハウス、上野西小学校体育館はすべて坂倉準三氏の設計であります。その他多くの指定文化財や国登録文化財が点在する上野城下町の景観に融合する文化的景観は、日本の伝統と20世紀遺産の融合そのものといえます。

このたび「日本の20世紀遺産20選」選出を受けて、伊賀上野まちづくり市民会議さんの主催で、2月10日（土）13：30からハイピア5階多目的大研修室で、記念シンポジウムが開催されます。

シンポジウムでは、日本イコモス国内委員会事務局長の矢野和之さんによる「伊賀上野城下町の文化的景観を考える」のご講演のあと、鹿児島大学大学院理工学研究科教授の鯉坂徹先生、三重大学大学院工学研究科准教授の浅野聡先生、映画監督の塩崎祥平さん、書店店長の岡森史枝さんが「伊賀上野城下町の文化的景観を考える」をテーマにパネルディスカッションをされるようです。

続きまして、資料No.2の「伊賀上野 NINJA フェスタ in 天神橋筋商店街の開催について」です。

4月7日土曜日から開催する伊賀上野 NINJA フェスタのPRの一環として、「伊賀上野 NINJA フェスタ in 天神橋筋商店街」を大阪市北区にある天神橋筋商店街において3

月3日（土）午前10時30分から16時まで開催します。

天神橋筋商店街で行うのは5回目、北区役所、天神橋筋商店街やその他関係団体とも連携した実行委員会組織で開催します。

当日は、忍者衣装のレンタルや商店街の1丁目から3丁目、4番街のそれぞれに手裏剣打ちや吹き矢などの忍者道場を設置し、忍者修行を体験していただきます。

また、地元の扇町総合高校吹奏楽部の皆様に忍者衣装を着用していただき、商店街を総勢約100人の忍者がパレードをします。

また、今回は東京のイベントでも“リアル伊賀嵐マイ”として出演した元SKEの竹内舞さんも登場し、イベントを盛り上げてくれます。

今年も春の観光シーズンには関西圏からより多くの方が伊賀市を訪れてくれたらと思うところです。

続いて資料No.3の「忍者月間における忍者市PR事業の実施について」です。

伊賀市では、忍者の本流地が伊賀であることを対外的に示すとともに、市民が忍者発祥の地であることを改めて認識し、市民一人ひとりが忍者の歴史文化や精神を継承し、官民一体となって忍者を活かした観光まちづくりを目指していくため、昨年、平成29年2月22日に忍者市宣言を行いました。

この宣言をきっかけに、より広く忍者市を発信するため、年間を通じて様々な取り組みを行っているところですが、特に2月を忍者月間と位置づけて2月22日の忍者の日を中心に、資料にもありますように忍者市PR事業を実施します。

まず、一つ目は、2月22日に行う京福電鉄嵐山駅における忍者市「伊賀市」の観光キャンペーンです。これは関西に滞在されている外国人観光客の伊賀市への誘客を図るため、外国人観光客が多く立ち寄る京福電鉄嵐山駅正面広場で、特産品や観光情報の発信イベントを行うものです。

2つ目は、忍者市市長による市内小学校での出前授業です。2月21日に上野西小学校の高学年児童を対象に「伊賀忍者」について私が授業を行う予定です。郷土愛を育むと共に将来へ向けたまちづくりへの意識の醸成を図るため、郷土の文化である「忍者」を子供たちに知ってもらおうというものです。

3つ目は2月15日に行う忍者クリーン作戦です。2月17日から始まる「伊賀上野城下町のおひなさん」や「国際忍者学会」にお越しいただく多くの皆さんをお迎えするため、忍者衣装で早朝からごみ拾いを行うものです。

4つ目は「忍者市」横断幕のリニューアルです。これは、現在の「忍者市宣言」の横断幕から「ようこそ！忍者市へ！！」にかけかえるもので、インバウンドを意識して英語、中国語も併記する予定です。

5つ目は、市公式YouTube「忍者市チャンネル」です。現在、伊賀市では市外へ発信する動画コンテンツは持ち合わせていません。

このため、市内外へ広く情報発信でき、視聴者にもわかりやすく、必要なときに見ることができるといことから、市の公式YouTubeを開設するものです。

このコンテンツは忍者市チャンネル」にちなんで2月22日の「忍者の日」から稼働させる予定です。

6つ目は、広報いが市に「忍者市を知る」と題したコラムの連載についてです。今年発行の広報いが市2月1日号から隔月で忍者ゆかりの地やできごと、人物などをコラム

形式で掲載して、「なぜ伊賀市は忍者市なのか」について、市民に知識を深めてもらいたいと考えています。

その他、忍者月間では国際忍者学会設立記念大会の開催や伊賀上野観光協会阿山支部による関連事業、また市内民間事業者による様々な取り組みが予定されています。あらゆる主体が一丸となって忍者市、伊賀流忍者を発信してまいりたいと考えています。

最後に資料No.4の4月2日から開始します『伊賀市の適正な土地利用に関する条例』の運用についてです。

伊賀市では、人口減少や少子高齢化社会においても持続可能な「多核連携型の都市構成」の実現を目指し、昨年9月に条例を制定しました。このたび三重県が決定権を持つ「都市計画区域の統合」及び「区域区分（いわゆる「線引き」）の見直し」に伴う国協議が全て完了しましたので、本年4月2日から運用を開始いたします。

この条例が運用されることで、合併以来の課題であった土地利用もようやく全市統一した手法により管理が行えるようになります。

なお、市民や事業者等に広く周知を行う必要があることから、3月には市内全戸に移行内容がわかるチラシを配布させていただく予定です。また、市のホームページ等を活用し、混乱なく移行できるよう努めたいと考えています。

2. 2月の主な行事予定

(1) 2018年2月 寺田市民館「じんけん」パネル展の開催について (資料No.6)

日時：2月1日(木)～27日(火) 午前8時30分から午後5時(平日のみ)

※ 2月13日(火)・20日(火)は午後7時30分まで延長

場所：寺田教育集会所 第1学習室

内容：『3.11から学ぶ～震災と人権～』

主催者：人権生活環境部 寺田市民館 (0595-23-8728)

(2) 2018年2月 いがまち人権センターパネル展の開催について (資料No.7)

日時：2月13日(火)～3月30日(金) 午前9時から午後5時(平日のみ)

※ 2月15日(木)、3月8日(木)は午後7時30分まで延長

場所：いがまち人権センターホール

内容：『2017年度いがまち人権センター活動紹介』

主催者：人権生活環境部 いがまち人権センター (0595-45-4482)

(3) 子育て広場「にんにんパーク」イベント開催について (資料No.8)

日時：2月11日(日)・25日(日) 午前10時から午前11時30分

場所：上野南公園「にんにんパーク」内(伊賀市ゆめが丘七丁目13番地)

内容：2月11日(日)「手裏剣をつくろう」

2月25日(日)「刀をつくろう」

主催者：健康福祉部 こども未来課 (0595-22-9677)

3. その他【主な質疑応答の概要】

(市公式 YouTube について)

記者：忍者市宣言のことですが、伊賀市公式ユーチューブを開設するという中で、どういった見せ方にするのか、何か決まっていることがあれば教えてください。

担当課：2月22日から10日間ということですので、昨年忍者市宣言をしましたときのVTRや、あと忍者列車の各駅の特集を行政情報番組にウィーク伊賀市の方へ流していますのでそちらの業務回数とかその他忍者市にまつわる動画を載せさせていただければと思っています。また、そのほか観光情報などの動画を掲載させていただければと思っています。

記者：例えば忍者市長がここにユーチューバーとして出演するとか、そういうこと考えていますか。

市長：それは広聴広報の方でいろいろと考えるということで、必然性があればためらいもなく出演します。新しい忍者装束が出来ましたのでお披露目を兼ねて出演します。

記者：ちなみに新しい衣装一回目に着るのは。

市長：2月21日の西小学校の出前授業ですね。これもユーチューブで若干配信します。

(伊賀市の適正な土地利用に関する条例について)

記者：伊賀市の適正な土地利用に関する条例は発表されるのは今回初めてですか。

担当課：昨年9月の議会で「伊賀市の適正な土地利用に関する条例」を可決されまして周知につきましては現在伊賀市のホームページに条例規則基本計画を掲載しています。

記者：条例制定の背景は何ですか。

担当課：市町村合併前から旧6自治体のうち4自治体に都市計画がありました。それを合併後は統合して、伊賀市1つの土地利用計画を策定する計画がありました。その後、平成22年に委員会が設置され、その段階で区域区分の統合と線引きの見直し廃止、新たに自主条例、わが町はわが町の自主条例でまちづくりをコントロールするという答申がなされまして、制度設計を実施してきました。三重県でも区域区分の廃止のご理解をいただいて国・県の協議が全て整ったということです。

記者：条例制定後はどうなるのですか。

担当課：今までの都市計画法で上野については市街化区域と市街化調整区域の区域区分がありますが、その区域区分を無くして非線引きにします。非線引きにすると、まちづくりがコントロール出来ないので、新たに自主条例を伊賀市全域に重ねていく方式です。自分のところは自分のところの条例でコントロールしていくそういう考え方です。

市長：今までのような規制を外して自分たちのまちづくりを行くことができる。しかし、条例によってコントロールしましょうということです。日本で2番目です。先行事例で1番目は長野県の安曇野市です。

(市議会特別委員会について)

記者：百条委員会ですが、伊賀神戸駅前のバス転回場の件について、市長はどのように考えていますか。

市長：私の見解としては、転回場については何ら法令に反するところはありません。委

員会では、契約した土地の広さ、価格、期間というのを指摘されています。広さについては相手方との交渉の結果でありますから、これは納得のいただける条件でなければ契約はできませんし、価格についても、同じような案件が近所であったときの価格を元に行っているわけですし、今回また土地の鑑定評価を取ったところでもありますので何ら不自然なことはないと思います。また、期間についても3ヶ月前に通告すれば、いつでも終わることのできる契約です。19年間ずっと契約するわけではなくて、立地企業さんに対する思いやり期間であります。結果において適法に行われたということだろうと考えております。

記者：百条委員会の関係ですが、価格が高すぎるではないかという話が出ていますけど、その見直しについては何のお考えがありますか。

市長：そういう中で出てきた場合には、見直しも検討することはあると思います。ただし、これは相手方があることですからご納得がいただけなければできないということになろうかと思えます。

記者：来年度当初予算では、1年分が計上されていますか。

市長：これは申し上げたとおり、何ら違法性なく進めている事業でありますので、当初予算の中では従前のとおりやっています。何も瑕疵はありません。

記者：そもそもこの事業は、伊賀神戸駅前に通勤に来られた従業員の方を送迎するバスのためにですけども、ゆめが丘に通勤するのであれば近隣の伊賀鉄道の駅で下車してそこからバスに乗り換える方法もあると思います。実際のところ、市部駅にはそういった機能を持たせています。依那古駅にはロータリー施設はありませんが、大型バスでも向きをかえる必要がなく運行できます。昨年では中国からの旅行者を乗せた観光バス数台、4、5台が止めて猪田道駅に下車させて市内観光させるというようなことが実績としてあったりします。こういったことを市の内部、伊賀鉄道に従業員を乗ってもらいその沿線のところ辺で対処できるのではないかと検討されましたか。

市長：パーク・アンド・ライド方式は伊賀鉄道の活性化の中では以前より考えていることです。しかし、この件はそれとは少しニュアンスが違って企業に対する立地政策、思いやりです。立地企業側からこういうことを通勤緩和、或いは従業員の利便性を図って欲しいということと言われてきたことに対して、何か良い方法はないかということで実現実行したわけです。一般的な交通政策と企業立地の部分で必ずしも一致しない部分もあります。

（野中広務氏ご逝去について）

記者：先日、野中広務さんご逝去の速報ニュースに際して寂しそうにされていました。その時にご親族の方と面識があると伺いましたが、どのようなご関係かを改めて教えてください。それと共に言われていたのは、「今の政治家にないものを持っていらっしゃる」と言われていた件と、市長が日ごろ記者会見の中で憲法9条の堅持などについておっしゃっている野中さんの政治姿勢と関係があるのかご説明していただけたらと思います。

市長：野中氏の娘さんの夫が私の前職の時の後輩です。久しく指導をしたということでその後もいろんな彼とは付き合いがありました。野中氏は義父にあたられる方です。そんなことで市長選のときも「がんばれよ」とエールも送っていただいたようなこともありました。今の政治家にないものとして、戦争体験をされているということで本

当に戦争というものの悲惨さ、或いは辛さというものが身をもって感じておられたということで、そこから平和であるとか或いは弱い者に寄り添うというような姿勢が大変強い方だという風に思います。今の政治家の方々も戦争の悲惨さと言うのをより真摯に考えていていただきたいと思うところです。